

3509 地球のかおり 「風の悪戯」：状況と心模様①

山がスマイルオンミー。おはよう。そして、1日が始まった。
北米大陸のロッキー山脈に沿って、バンフからジャスパーまで、高速道路の大動脈がある。
訪れる人にとっては、観光スポットも多く、
雄大な氷河始め、ロッキー山脈らしい光景が見られる。日本人にも人気がある。
それだけに、シーズンは団体客で、人、人、… 日本人が目につく。

バンフもジャスパーも何度か宿泊。しかし、せっかく海外に来て、日本の延長線上では困る。
日本人の目につく所には行きたくない。日本人の行かない所はどこか。
日本語も耳にしたくない。日本人を見ない所はどこか。少しへそ曲がりである。
日本人が動かない時間帯はいつか。とは言いながら、日本食もたまには食べたい。
本音は、異国に来た実感を味わいたい。
観光スポットでない所にも、興味深い面白い所がいっぱいある。
確率は低いが、一期一会、未知との遭遇、その出会いがなんとも楽しい。
幸い、ひとり旅で自由である。機動性もある。好奇心も強い。フットワークもいい。

今、春から夏に向かう季節である。現地で購入した地図や情報資料も参考程度に、あちこち移動。
小さくても良い、素敵で感性に合う宿はないか？ 厳寒ではない。不安も少ない。
このさまよう時間が結構楽しい。ピンからキリまでを体感する旅のスタイル。
違いが見えてくるのも楽しみ。どんな雰囲気か、その国らしいなのだろうと想像をめぐらす。
どこにでもあるような旅は、したくない。

ここはロッキー山脈の山の中。広大である。ちょっとのつもりが、結構距離がある。
こだわりを貫くのは大変、時には妥協も必要だろう。探し疲れてどうでもよくなってきている。
今夜は、ベッドにありつくのは難しそう。雨も降り出した。
宿がどこにあるかも確かでない。国道から脇道にそれて、相当の距離、車を走らせていた。
雨も激しくなってきた。視界も良くない。少し一休みしたほうがいいのかも…
エンジンを止めても、そんなに寒くない状況のようだ。車の中で暖もとれる。
食料も準備している。

安全な旅をしたい。危険はまっぴら、と言いながら、結構危険な旅をしている。これは矛盾。動物も怖い。特に恐怖体験のある熊は恐ろしい。しかし、今はそれ以上に視界の悪さ。高速道路のように一本道ではない。曲がりくねった道に来ている。方向感覚もあやふや。ライトをつけて走行しても視界がきかない。道路なのか、路肩なのか。道路の境界線がわからない。標識も見つからない。これ以上、走行するのは危険。しばらく、車を止めることにした。車を駐車する場所も問題。右はブッシュのようにも見える。左は視界が広がり川らしい。カナダでは車は右側通行、右側も油断ならない。

北欧の北極圏で風の恐ろしさは体験している。自然に太刀打ちは出来ないことは百も承知。車すら強風は動かす。自然の神秘と驚異は、味方ばかりとは限らない。参考までに、2018年6月下旬、発生した滋賀県米原の竜巻、瞬間風速65メートルとのこと。ここなら安全そう？ という場所を、真剣に探し、駐車した。いくら自由な旅人とはいえ、大の大人である。枕を高くして寝られたらと思うのが、普通かもしれない。ただ、ワンパターンの旅は好きになれない。ピンからキリの旅をするから面白く、有難味が実感できる。何事も都合よく、良いように解釈。社会や人間とかかかわっていると、そうは行かない。またまた、横道にそれた。本題に戻りたい。相当疲れていたのだろう。ぐっすり、寝込んでしまった。

何かの気配で目が覚めた。私の地球紀行ひとり行脚では、何度も体験している。外は明るくなっていた。窓から目に飛び込んできたのは動物。驚いたのは言うまでもない。親子の角のある動物だった。何度かご対面。熊ならびっくりしていただろう。少し慣れてきているので、心の余裕もある。危険はなさそう。エンジンも止めている。私の存在も、あまり気にしていない様子、一安心である。飛び入り画像。北米大陸、山奥の宿に宿泊。帰宅が夜道になり、バッファロー群に取り囲まれた。左ハンドル、目と目があった時は驚いた。やり過ごし、落ち着いてパチリ。結果オーライ。



朝まで寝てしまっていたようだ。車中泊である。車の窓ガラスには、雨らしい水滴。
昨夜は、相当激しかった様子。枝や木がそこかしこに、痕跡としてあった。
外は小雨のようにも、今は、雨が止んでいるようにも見える。車外に何もいないか確かめた。
左に浪々と大河が流れている。昨夜は小さな川かと思っていた。
上流は激しい雨だったのか、水量も多い。
明るくなってきた。針葉樹、何ともカナダらしい大自然が眼前にあった。

何が幸いするかわからない。ラッキーが微笑んでくれたのだ。
地道の道路の見通しも悪く、雨も降っていたので、走行が危険と判断し、場所を選んで駐車。
気がつく朝になっていたのだ。車外の状況は、わからなかったが、運良く、
素敵な光景の中で目覚めたのである。超ラッキー。
雨もやんだ。動物たちも立ち去った。狭い空間、不自然な姿勢で眠ったので、少し身体が痛い。
車外に出て、身体を動かし、ストレッチ。空気が美味しい。身体も元に戻った。
眼前には、浪々と流れる大河。名前は知らないが、さぞかしお名前のある河ではないか。
名前は私の関心事ではない。その時、この大河に手をつけたい、体感したい、と思った。
思うと動いている。我ながら、実にフットワークが良い。心が命じ、心が動かすのだと思う。

眼前の広大な光景は、美味しい朝のご馳走。宿やホテルでゆっくりしては見られない光景。
深呼吸を胸一杯に。空気が実に美味しい。車内には、食料も水も準備している。
のどもかわいている。美味しい水、何とも有難い。人は、それぞれの、安らぎや癒しの時が
欲しいもの。今の私には、自然がよりどころ。大自然の中で、深呼吸するのが、最高の至福の時。

肌に少し風を感じた。天候は良くなりそうな気配。顔までは無理だが、手を洗おうと水辺に。
と言っても、浪々と流れる大河、水かさも増えている。流れも速そう。
深さもありそう。渦を巻いている所もある。慎重に、足元を踏みしめて、確かめながら水際へ。
流れの水面を覗いていると、なんとも面白い。視線を低くした事で、この河の広大さを感じ、
興味が増した。突然、直感が働き、本能にスイッチが入った。
やがて、遠方の針葉樹とのコントラストが、好ましくなり始めた。雨上がりである。
刻々と鮮明になって行く。この光景だけでも絵になる。
この時は、6x7カメラと、大きな三脚を持参していた。大河を前に、雨上がりの夜明け。
絵画なら、描き足すことも、消すことも、デフォルメが可能。私は自然まかせ。
私の感動が、最高になる瞬間を待つ。ものに気づくのは、知識でなく、^{くら}久楽流は、感性が最優先。

主役、脇役、借景、構成、構図、光と色彩、そのバランス。

自然は思うようにはならない。瞬間的な直感が、全てを決めると思っている。

私のイメージでは、この光景だけでも充分作品になる。作品を残したい。欲を言えばきりが無い。

一面の無彩色のグレーの世界に、今ひとつ何かほしい。

風のいたずらなのだろう。空の色が変わり始めた。どんな風になるのだろうか興味津々。

突然、雲の色が、一部、薄くなり始めた。そして、山が笑ったように感じた。

スマイルオンミー。瞬きは、2〜3分、また、グレー一色に戻った。

こんな瞬間があるから、大げさだが、生きていて良かったという思いが強い。作品に残せた。

その後の作品展で、1200x900、と大きく和紙作品「夢絵」に創作。皆様に喜んでいただき、

数々のコメントも頂戴した。その後、寒梳き純楮和紙だけでなく、大きな雲龍紙にも創作。

現在、作品の一つが、東京の某旅行会社の入口に飾ってある。作者冥利に尽きる。

厳しさや試練を乗り越えると、その向こうに喜びがある。いくつもの試練を乗り越えてきた事実。

まだまだだが、その体験と実感を持つ私は幸せ。ゴミになるか、作品として残るのか問題だが…

未来は創るもの。試練が私を鍛えてくれた。努力すれば、きっと未来は拓けると今も信じたい。

そんな考え方を自然から教えられた。旅も人生の同じ。迷った時、悩んだ時、苦しい時、

自然に身を置き、自然と会話。なんとか、打開策を思いつくことが多い。自然様々。感謝感謝。

年齢は経たが、人生まだまだ、3年後、10年後のために、今が大切と独りよがり実践中。

「風の悪戯」との格闘後の至福の時間。一仕事終わった後の大自然での久楽流の楽しみ方の一つ。

お腹が減っているのに気づいた。頑張った後の食事時間。パンと飲み物。秘密の一工夫がある。

粗末などとは、思わない。実に美味しく、ご馳走である。何しろ、サイドディッシュが最高。

一つは、眼前の光景。今ひとつは、レンタカーの素敵な音楽。CDを持参してきている。

鎌倉や葉山のFM、京都のFMに出演させていただいた時、好きな音楽は何ですか？ と…

かけますのでということで、カラヤン指揮のペールギュントの朝、とお願ひしたことがある。

このカナダの大自然の中でも、ボリューム一杯に、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、

エドヴァルド・グリーグ作、指揮、ヘルベルト・フォン・カラヤン、ペールギュント、

第一組曲、作品 46、Morning Mood「朝」。コンサートホールで聴くよりは、最高の楽しみ方。

眼前の光景とともに、まさにハーモニー。充分に朝の食卓も楽しんだのである。

作品「風の悪戯」「カモメと少年」「森の妖精」 いい思い出は心の財産。明日も頑張りたい。